

# 決算概要

2022年11月16日

常務取締役 経営企画本部長

余語 岳仁

# 目次

新型コロナウイルス等の事業への影響	2
2022 年度 2Q 業績	3
販売費および一般管理費	4
為替影響を除いた損益比較	5
事業セグメント別 売上高・営業利益	6
セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）	7
セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）	8
セグメント業績 - ②医薬関連事業	9
セグメント業績 - ③ファーマパッケージング事業	10
セグメント別・製品群別の売上高	11
セグメント別・地域別の売上高	12
製品分類表	13
製商品別売上高	14、15
為替感応度	16
設備投資額・減価償却費	17
2022 年度 通期予想の変更（全体）	18
2022 年度 通期予想の変更（事業セグメント別）	19
中期経営計画における主要 KPI - ①	20
中期経営計画における主要 KPI - ②	21

# 新型コロナウイルス等の事業への影響

## 製造・購買・物流

今年度の工場稼働停止およびダイアライザライン(中国合肥、インド)の新設予定は下記。現在、国内外の工場は通常稼働。

2022												2023			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
		中国上海 ロックダウンの影響 3/13~3/15 稼働停止 3/16~3/20 10%以下に出勤率制限	中国上海 4/1~5/31 完全稼働停止		中国上海 6/1より 順次稼働再開	中国合肥 7/15 ダイアライザ3ライン目 新規稼働						インド ダイアライザ3ライン目 新規稼働予定		インド ダイアライザ4ライン目 新規稼働予定	

## 販売

- 透析用医療機器 : ダイアライザは中国、北米、日本で堅調、欧州は軟調に推移、透析センターは中南米にて拡大
- 循環器用医療機器 : カテーテルは中国、日本で主力製品、新製品ともに前年対比で大きく伸長
- 外科用医療機器 : 人工肺やHeartMate II は堅調に推移
- 自社医薬品 : 経口剤と外用剤で低調も、注射剤で薬価引き上げと販売数量増加により全体としては販売が増加
- 受託医薬品 : 海外販売は堅調に推移するも、日本は顧客の在庫調整や販売終了品目の受注減により、前年対比で減少
- ファーマパッケージング : 中国ではワクチン向けバイアル・シリンジが需要減少で軟調に推移するも、米国、フランス、インドで生地管、米国、欧州、インドでバイアル、欧州でアンプルの販売が堅調

## 臨床試験

臨床試験の実施や承認申請への大きな影響はなし

## 感染対策隔離ユニット「AIR ZIPPER™」販売開始のお知らせ(8月30日)

飛沫感染や空気感染の恐れがある患者さまを隔離した状態で治療することのできるユニットです。透明なテントの中に感染症 患者さまを隔離し、ウイルスを含む可能性のある空気の漏出を陰圧装置で防ぎ、HEPA フィルタにより除菌排気することができます。

# 2022年度2Q 業績

	2021年度 2Q	2022年度 2Q	増減額 (増減率)	上期予想 (進捗率)	通期予想 5月時点 (達成率)	通期予想 11月時点 (達成率)	四半期別業績推移				
							2021年度			2022年度	
							2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	2,421.2	<b>2,603.3</b>	+182.1 +7.5%	2,625.0 99.2%	5,400.0 48.2%	<b>5,518.0</b> 47.2%	1,241.1	1,272.3	1,254.3	1,278.9	<b>1,324.4</b>
売上原価	1,684.1	<b>1,814.7</b>	+130.5 +7.8%	1,797.0 101.0%	3,707.0 49.0%	<b>3,842.0</b> 47.2%	866.2	886.2	884.8	886.8	<b>927.9</b>
売上総利益 (※2)	737.0 30.4%	<b>788.6</b> 30.3%	+51.5 +7.0%	828.0 95.2%	1,693.0 46.6%	<b>1,676.0</b> 47.1%	374.9 30.2%	386.1 30.3%	369.4 29.5%	392.0 30.7%	<b>396.5</b> 29.9%
販売管理費	608.4 25.1%	<b>724.9</b> 27.8%	+116.5 +19.1%	713.0 101.7%	1,418.0 51.1%	<b>1,499.0</b> 48.4%	301.4 24.3%	317.4 24.9%	328.0 26.2%	362.5 28.3%	<b>362.3</b> 27.4%
営業利益	128.6 5.3%	<b>63.7</b> 2.4%	△64.9 △50.5%	115.0 55.4%	275.0 23.2%	<b>177.0</b> 36.0%	73.4 5.9%	68.7 5.4%	41.4 3.3%	29.5 2.3%	<b>34.1</b> 2.6%
経常利益 (※3)	124.3 5.1%	<b>116.0</b> 4.5%	△8.2 △6.7%	114.0 101.8%	266.0 43.6%	<b>266.0</b> 43.6%	72.0 5.8%	81.1 6.4%	70.3 5.6%	73.3 5.7%	<b>42.6</b> 3.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	73.0 3.0%	<b>62.5</b> 2.4%	△10.5 △14.4%	67.0 93.3%	156.0 40.1%	<b>156.0</b> 40.1%	40.0 3.2%	37.3 2.9%	24.1 1.9%	52.7 4.1%	<b>9.7</b> 0.7%
IFRSに準拠した場合の 当期純利益(概算額)	87.6	<b>73.8</b>	△13.8 △15.8%	-	185.0 39.9%	<b>185.0</b> 39.9%					

(※2) 売上総利益への  
未実現利益の影響額

2021年度2Q  
2022年度2Q

△7.1億円  
+11.4億円

(※3) 為替損益

2021年度2Q  
2022年度2Q

+6.9億円  
+65.4億円

- 売上高 医療機器、国内医薬、ファーマパッケージングは売上増加。医薬品受託は売上減少。材料費やエネルギー費、運送費高騰に対する販売価格の値上げは計画通り進まなかったものの、海外売上高が円安の効果で増加したことにより、対前年で増収。
- 売上総利益 売上高は伸長するも、材料費とエネルギーコストの高騰をカバーしきれず、売上総利益率は微減。
- 営業利益 営業活動の再開に伴う販促費・旅費交通費の増加に加え、国内外における運送費の増加が大きく営業利益は半減。
- 経常利益 為替差益が前年より58.4億円拡大するも、経常利益は対前年で減少。
- 当期純利益 不動産売却による特別利益を計上し税前利益が対前年で増加するも、税負担が増加し、当期純利益は対前年で減少。

# 販売費および一般管理費

## 【販売費および一般管理費】

	2021年度 2Q	2022年度2Q		増減	増減率	通期予想 (5月時点)	通期予想 (11月時点)
		実績	構成比				
人件費	206.2	217.0	29.9%	+10.8	+5.2%	442.5	462.1
研究開発費	87.9	100.4	13.9%	+12.5	+14.2%	197.5	200.0
運送費	58.3	110.8	15.3%	+52.5	+90.1%	215.0	227.2
償却費(※1)	54.7	54.6	7.5%	△0.1	△0.2%	108.0	109.0
販促費(※2)	41.0	48.7	6.7%	+7.7	+18.8%	92.0	100.5
旅費交通費	14.5	20.8	2.9%	+6.3	+43.4%	34.0	36.6
保管料	14.4	18.1	2.5%	+3.7	+25.7%	27.0	32.1
その他	131.1	153.9	21.2%	+22.8	+17.4%	302.0	331.5
合計	608.4	724.9	100.0%	+116.5	+19.1%	1,418.0	1,499.0

(※1) 減価償却費・のれん償却費・開発償却費

(※2) 販売手数料・見本品費・広告宣伝費・交際接待費

## 【研究開発費(内訳)】

	2021年度 2Q	2022年度 2Q	通期予想 (5月時点)	通期予想 (11月時点)
医療	47.3	55.0	87.5	91.5
医薬	38.6	43.5	108.0	105.0
ファーマ パッケージング	2.1	2.6	3.5	3.5
合計	88.0	101.2	199.0	200.0

(※) 研究開発費・試験研究費・開発償却費の合計額

## ●販売費および一般管理費

世界的な原油高に加え、コンテナ不足の影響が継続しており、運送費が対前年で大きく増加。新型コロナウイルス感染症の影響による行動自粛が緩和されたことに伴い、旅費交通費・販促費が対前年で増加。今後も運送費と販促費が増加傾向にあるのに加え、国内の倉庫移転に伴う保管料の増加、インフレと為替影響による海外の人件費の増加によって、通期予想は期初予想から81億円増加に変更。

## ●研究開発費

- 医療 透析情報管理システムの開発プロジェクトが開始されたことに加え、薬剤溶出ステントの治験費用を計上し対前年で増加。それに伴い通期予想を期初から4億円増加に変更。
- 医薬 経口剤開発関連の費用が減少するも、開発に要する原薬の購入費用に加え各種治験の費用が増加し対前年で増加。
- P P 研究開発に係る人件費が増加したことにより、対前年で増加。

# 為替影響を除いた損益比較

	2021年度 2Q 【a】	2022年度 2Q 【b】	為替の影響 (※) 【c】	影響を除いた 2022年度 【d=b-c】	増減率 【d÷a】
売上高	2,421.2	2,603.3	+112.7	2,490.6	+2.9%
売上原価	1,684.1	1,814.7	+59.9	1,754.8	+4.2%
売上総利益 (%)	737.0 30.4%	788.6 30.3%	+52.8	735.8 29.5%	△0.2%
販管費	608.4	724.9	+27.6	697.3	+14.6%
営業利益 (%)	128.6 5.3%	63.7 2.4%	+25.2	38.5 1.5%	△70.1%
営業外収益	28.7	88.1	+58.4	29.7	+3.5%
営業外費用	33.0	35.8		35.8	
経常利益	124.3	116.0	+83.6	32.4	△73.9%
特別利益	5.3	25.0		25.0	
特別損失	8.4	9.6		9.6	
税引前利益	121.2	131.4	+83.6	47.8	△60.6%
法人税等	40.4	60.9	+38.7	22.2	△45.2%
非支配株主に 帰属する純利益	7.7	7.9		7.9	
当期利益	73.0	62.5	+44.9	17.6	△75.8%

※ 昨年レートとの差額で外貨取引合計を円換算  
円貨取引における為替の影響は考慮していません

期中平均レート	2021年度	2022年度	期末レート	2020年度	2021年度	2021年度	2022年度
	1~6月	1~6月		12月	6月	12月	6月
1 USD	108.45	124.52	1 USD	103.50	110.58	115.02	136.68
1 EUR	130.46	135.16	1 EUR	126.95	131.58	130.51	142.67
1 中国元	16.76	19.13	1 中国元	15.88	17.11	18.06	20.38

# 事業セグメント別 売上高・営業利益

## 売上高

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	【通期予想】 （5月時点）	【通期予想】 （11月時点）
医療関連事業	2022年度2Q	2,008.2	+173.8	+9.5%	4,095.0	4,229.6
	2021年度2Q	1,834.3				
医薬関連事業	2022年度2Q	341.3	△8.3	△2.4%	790.0	762.6
	2021年度2Q	349.7				
ファーマパツケー ジツグ事業	2022年度2Q	250.4	+16.2	+6.9%	512.0	521.9
	2021年度2Q	234.1				

## 営業利益

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	【通期予想】 （5月時点）	【通期予想】 （11月時点）
医療関連事業	2022年度2Q	185.9	△10.0	△5.1%	407.0	406.3
	2021年度2Q	195.9				
医薬関連事業	2022年度2Q	8.4	△17.5	△67.4%	99.0	26.0
	2021年度2Q	26.0				
ファーマパツケー ジツグ事業	2022年度2Q	20.9	△0.1	△0.6%	33.0	28.0
	2021年度2Q	21.1				

- 医療関連事業 売上は伸長するも、主に海外における運送費高騰と行動制限緩和に伴う販促費・旅費交通費の増加により、営業減益。
- 医薬関連事業 売上は伸長するも、材料費と電力料・水道光熱費の高騰と品質強化費用の増加により、営業減益。
- ファーマパツケージツグ事業 売上は伸長するも、主に海外における運送費高騰と行動制限緩和に伴う販促費・旅費交通費の増加により、営業減益。

# セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	【通期予想】 (5月時点)	【通期予想】 (11月時点)
<b>国内事業</b>	2022年度2Q	1,043.1	+44.9	+4.5%	2,220.0	2,179.1
	2021年度2Q	998.2				
<b>医療機器</b>	2022年度2Q	587.4	+27.2	+4.9%	1,258.5	1,200.2
	2021年度2Q	560.2				
<b>医薬品</b>	2022年度2Q	455.6	+17.6	+4.0%	961.5	978.9
	2021年度2Q	438.0				
<b>ダイアライザ</b>	2022年度2Q	112.1	+2.6	+2.4%	229.6	227.3
<b>国内売上高</b>	2021年度2Q	109.5				

● **医療機器** ダイアライザは、販売が堅調に推移。

カテーテル類は、コロナ影響の緩和により、手術件数が戻りつつあるため、主力製品の薬剤溶出バルーンや新製品のPTCAバルーンカテーテルの販売が増加し、前年対比では大きく伸長。

透析機器は、販売が堅調に推移。

● **国内医薬** 今年度の薬価改定により、経口剤は薬価が下がったものの、注射剤は抗生物質製剤や輸液製剤において、不採算再算定品目の薬価が上がったことに加え、販売数量が増加したことにより、前年対比で増加。

# セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	【通期予想】 (5月時点)	【通期予想】 (11月時点)
国際事業	2022年度2Q	936.1	+120.5	+14.8%	1,828.0	2,003.5
	2021年度2Q	815.6				
B2B(他社ブランド)	2022年度2Q	113.2	+7.3	+6.9%	229.9	227.6
	2021年度2Q	105.9				
ニプロブランド	2022年度2Q	822.7	+113.1	+15.9%	1,598.0	1,775.9
	2021年度2Q	709.6				
アメリカ	2022年度2Q	375.4	+73.9	+24.5%	694.1	796.8
	2021年度2Q	301.5				
ヨーロッパ	2022年度2Q	183.9	△15.8	△7.9%	359.8	402.5
	2021年度2Q	199.7				
アジア	2022年度2Q	142.8	+24.9	+21.1%	289.4	314.5
	2021年度2Q	117.9				
中国	2022年度2Q	120.6	+30.2	+33.4%	254.6	262.0
	2021年度2Q	90.4				
ダイアライザ 海外 売上高	2022年度2Q	297.9	+33.9	+12.8%	594.7	652.7
	2021年度2Q	264.0				

●B2B インスリン用針は販売が減少するも、翼状針・採血針は堅調に推移。

●ニプロブランド 円安進行の影響で、売上高は全体的に増加傾向。

ダイアライザの数量は、中国にて国産化推奨の動きから合肥工場製の需要が拡大し、引き続き大きく伸長。北米は需要が拡大し堅調。欧州はロシア-ウクライナ問題の影響で引き続き軟調に推移。

透析装置は、欧州で軟調に推移するも、アジアで需要が拡大し増加。

その他透析関連については、透析センターの開設が進み、関連製品含め堅調に推移。



# セグメント業績 - ② 医薬関連事業

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	【通期予想】 (5月時点)	【通期予想】 (11月時点)
医薬関連事業	2022年度2Q	341.3	△8.3	△2.4%	790.0	762.6
	2021年度2Q	349.7				
＜ 受託売上高内訳 ＞						
ジェネリック品	2022年度2Q	187.2	△3.1	△1.6%	400.6	409.2
	2021年度2Q	190.3				
先発品 長期収載品	2022年度2Q	106.4	△10.5	△9.0%	289.8	253.0
	2021年度2Q	116.9				
OTC 原薬他	2022年度2Q	20.3	△0.6	△2.9%	46.7	43.2
	2021年度2Q	20.9				
JMIファーマ	2022年度2Q	27.2	+5.4	+24.8%	52.9	57.2
	2021年度2Q	21.8				

- ジェネリック品 顧客の在庫調整や販売終了品目の受注減により、前年対比で減少。
- 先発品/長期収載品 抗生物質製剤全般の受注減により、前年対比で減少。
- OTC/原薬他 昨年は原薬受注が集中したことにより、前年対比では微減。
- JMIファーマ 営業人員の増員、販売促進費の増額により顧客開拓し、前年対比で増加。

# セグメント業績 - ③ファーマパッケージング事業

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	【通期予想】 (5月時点)	【通期予想】 (11月時点)	
ファーマパッケージング事業		2022年度2Q	250.4				
		2021年度2Q	234.1	+16.2	+6.9%	512.0	521.9
＜ 地域別売上高内訳 ＞							
日本	2022年度2Q	57.6					
	2021年度2Q	55.8	+1.8	+3.2%	111.0	115.9	
海外	2022年度2Q	192.7					
	2021年度2Q	178.2	+14.5	+8.1%	401.0	406.1	
ヨーロッパ	2022年度2Q	102.7					
	2021年度2Q	86.4	+16.3	+18.9%	195.5	215.1	
アメリカ	2022年度2Q	55.7					
	2021年度2Q	49.6	+6.1	+12.3%	105.0	128.7	
中国	2022年度2Q	25.3					
	2021年度2Q	35.9	△10.6	△29.5%	87.0	44.3	
インド	2022年度2Q	8.8					
	2021年度2Q	6.2	+2.6	+41.9%	13.5	18.0	

- **日本** 抗菌剤用バイアルの出荷ならびにワクチン・理化学用等の生地管の需要が増加し、前年対比で増加。新型コロナウイルスの影響を受け、検査用スポンジスワブの出荷が増加。
- **海外** 生地管はフランスにて操業度が回復し、アメリカとインドでは需要が増加したことにより、前年対比で増加。バイアルは米国・欧州での販売が堅調、インドでは後発医薬品の需要が増加し、前年対比で増加。欧州でのクロアチア企業の買収により、アンプルの販売が増加。中国ではワクチン向けバイアル・シリンジが需要減少したことにより、軟調に推移。

# セグメント別・製品群別の売上高

セグメント 製品	単位：億円	医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマパッケー ジング事業	その他 事業	合計
医療機器	2022年度2Q	1,504.6	0.0	16.8	0.0	1,521.5
	2021年度2Q	1,358.6	0.0	(※3) 14.7	0.0	1,373.3
医薬品	2022年度2Q	(※1) 503.3	(※2) 341.3	1.8	0.0	846.5
	2021年度2Q	475.2	349.7	2.4	0.0	827.5
ファーマ パッケージング	2022年度2Q	0.1	0.0	230.6	0.0	230.7
	2021年度2Q	0.1	0.0	216.6	0.0	216.7
その他	2022年度2Q	0.0	0.0	1.1	3.4	4.5
	2021年度2Q	0.3	0.0	0.3	2.9	3.5
合計	2022年度2Q	2,008.2	341.3	250.4	3.4	2,603.3
	2021年度2Q	1,834.3	349.7	234.1	2.9	2,421.2

(※1) 自社ジェネリック医薬品

(※2) 受託製造医薬品

(※3) 注射針類、輸液関連製品、検査製品

# セグメント別・地域別の売上高

セグメント		医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマッケー ジング事業	その他 事業	合計
地域	単位：億円					
日本	2022年度2Q	1,014.5	312.7	57.9	3.4	1,388.6
	2021年度2Q	980.6	325.6	56.3	2.7	1,365.3
海外計	2022年度2Q	993.7	28.6	192.4	0.0	1,214.7
	2021年度2Q	853.7	24.0	177.8	0.1	1,055.8
アメリカ	2022年度2Q	419.4	0.0	53.2	0.0	472.7
	2021年度2Q	332.6	0.2	46.7	0.0	379.6
ヨーロッパ	2022年度2Q	224.6	0.3	101.0	0.0	326.0
	2021年度2Q	223.0	1.2	86.5	0.1	311.0
中国	2022年度2Q	152.0	0.1	24.4	0.0	176.6
	2021年度2Q	118.2	0.0	35.9	0.0	154.1
その他アジア	2022年度2Q	197.5	28.1	13.6	0.0	239.3
	2021年度2Q	179.9	22.5	8.5	0.0	211.0
合計	2022年度2Q	2,008.2	341.3	250.4	3.4	2,603.3
	2021年度2Q	1,834.3	349.7	234.1	2.9	2,421.2

- **地域別** 2022年度2Qの地域別売上高比率は国内53.3%、海外46.7%であり、いずれの地域も販売は堅調。
- **セグメント別** 医療関連事業は、国内・海外共にダイアライザや注射針類、透析関連製品、バスキュラー関連製品の販売が堅調。  
 医薬関連事業は、海外の販売は堅調であるものの、国内は顧客からの在庫調整等での受注減により、販売が減少。  
 ファーマパッケージング事業は、中国ではワクチン向けバイアル・シリンジの需要が減少するも、日本では抗菌剤用バイアルとワクチン・理化学用等の生地管、アメリカではバイアルと生地管、欧州ではアンプルとバイアル・生地管の販売が堅調。

# 製品分類表

医療機器区分	
ダイアライザ	ダイアライザ（人工腎臓透析器）、HDFフィルター
透析機器	透析システム、メンテナンス、透析機器部品
その他透析関連	血液回路、AVFニードル（翼付留置針） 他
注射針類	PSVニードル（翼付留置針）、セーフタッチニードル 他
バスキューラ関連製品	循環器治療用カテーテルセット、血栓吸引カテーテル 他
輸液関連製品	輸液セット、IVカヌラ 他
検査製品	ネオチューブ、採血針 他
糖尿病関連製品	インスリン針、血糖測定器（海外向け）、ランセット
SD関連製品	補助人工心臓、人工肺、整形外科製品
その他	医療器械、血液関連製品、培養商品、手袋 他
医薬品区分	
経口剤	経口剤
注射剤・輸液	シリンジキット、バイアル製剤、PLW、粉末透析剤、透析液 他
外用剤・貼付剤	外用剤、貼付剤
その他・体外診断薬 等	診断薬、医薬品、血糖測定器 他
ファーマパッケージング区分	
生地管関連	医薬用生地管、非医療用生地管、硝子原料
アンプル硝子	アンプル（シングルチップ、ダブルチップ）
バイアル硝子	バイアル（ブローバック、スクリュー、滅菌済等）
シリンジ硝子	シリンジ（ルアーロック、ルアースリップ、滅菌済等）
ゴム栓・栓体類	ゴム栓、栓体、栓・キャップ類
プラスチック容器	プラスチック品
魔法瓶	魔法瓶用硝子
その他	硝子容器その他、特殊硝子容器、カートリッジ硝子その他など

# 製商品別売上高（1）

事業分類	単位：億円	全社				海外				日本			
		2021年度 2Q	2022年度 2Q	増減額	増減率	2021年度 2Q	2022年度 2Q	増減額	増減率	2021年度 2Q	2022年度 2Q	増減額	増減率
【医療機器】	ダイアライザ	373.5	410.0	+36.5	+9.8%	264.0	297.9	+33.9	+12.9%	109.5	112.1	+2.5	+2.4%
	透析機器	105.1	107.9	+2.7	+2.6%	67.7	65.5	△2.2	△3.3%	37.3	42.3	+4.9	+13.3%
	その他透析関連	171.5	211.1	+39.6	+23.1%	132.8	170.2	+37.3	+28.1%	38.6	40.9	+2.2	+5.9%
	<b>透析関連製品計</b>	<b>650.2</b>	<b>729.1</b>	<b>+78.8</b>	<b>+12.1%</b>	<b>464.6</b>	<b>533.7</b>	<b>+69.0</b>	<b>+14.9%</b>	<b>185.5</b>	<b>195.3</b>	<b>+9.8</b>	<b>+5.3%</b>
	注射針類	201.7	245.9	+44.2	+21.9%	124.1	170.1	+45.9	+37.0%	77.5	75.8	△1.7	△2.3%
	バスキュラー関連製品	150.6	170.6	+20.0	+13.3%	23.7	32.9	+9.1	+38.7%	126.8	137.6	+10.8	+8.5%
	輸液関連製品	82.1	87.3	+5.2	+6.4%	26.5	31.4	+4.9	+18.5%	55.5	55.9	+0.3	+0.6%
	検査製品	54.2	58.9	+4.6	+8.6%	37.9	41.4	+3.5	+9.3%	16.3	17.5	+1.1	+7.0%
	糖尿病関連製品	42.9	43.1	+0.1	+0.5%	35.0	36.6	+1.5	+4.5%	7.8	6.5	△1.3	△17.3%
	SD関連製品(※1)	29.0	33.2	+4.2	+14.5%	3.4	6.2	+2.8	+82.2%	25.5	26.9	+1.3	+5.4%
	その他	161.1	151.2	△9.8	△6.1%	100.5	93.0	△7.4	△7.4%	60.5	58.1	△2.3	△3.9%
<b>部門計</b>	<b>1,372.1</b>	<b>1,519.7</b>	<b>+147.6</b>	<b>+10.8%</b>	<b>816.1</b>	<b>945.7</b>	<b>+129.6</b>	<b>+15.9%</b>	<b>555.9</b>	<b>573.9</b>	<b>+18.0</b>	<b>+3.2%</b>	
【医薬品(自社)】	経口剤	194.7	188.6	△6.0	△3.1%	0.1	0.0	0.0	△62.2%	194.6	188.6	△5.9	△3.1%
	注射剤・輸液	201.5	238.4	+36.8	+18.3%	35.6	46.3	+10.7	+30.1%	165.9	192.0	+26.1	+15.8%
	外用剤・貼付剤	33.3	31.5	△1.8	△5.6%	-	-	-	-	33.3	31.5	△1.8	△5.6%
	その他・体外診断薬等	45.6	44.7	△0.8	△1.8%	1.6	1.4	△0.2	△15.3%	43.9	43.3	△0.5	△1.3%
	<b>部門計</b>	<b>475.2</b>	<b>503.3</b>	<b>+28.0</b>	<b>+5.9%</b>	<b>37.4</b>	<b>47.8</b>	<b>+10.3</b>	<b>+27.7%</b>	<b>437.8</b>	<b>455.5</b>	<b>+17.7</b>	<b>+4.0%</b>
【医薬品(受託)】	経口剤	142.4	149.3	+6.9	+4.8%	0.4	0.3	△0.1	△36.5%	141.9	149.0	+7.0	+5.0%
	注射剤・輸液	146.0	127.9	△18.1	△12.4%	1.2	0.6	△0.5	△48.5%	144.8	127.2	△17.5	△12.1%
	外用剤・貼付剤	28.2	25.5	△2.7	△9.8%	0.2	0.2	0.0	△9.6%	28.0	25.3	△2.7	△9.8%
	その他・体外診断薬等	13.4	13.0	△0.4	△3.0%	0.2	0.1	0.0	△26.4%	13.2	12.9	△0.3	△2.6%
	<b>部門計</b>	<b>330.3</b>	<b>315.8</b>	<b>△14.4</b>	<b>△4.4%</b>	<b>2.1</b>	<b>1.3</b>	<b>△0.8</b>	<b>△39.2%</b>	<b>328.1</b>	<b>314.5</b>	<b>△13.5</b>	<b>△4.1%</b>
【医薬品(JMIP)】	経口剤	21.6	27.0	+5.3	+24.9%	21.6	27.0	+5.3	+24.9%	-	-	-	-
	注射剤・輸液	0.2	0.2	0.0	+3.4%	0.2	0.2	0.0	+3.4%	-	-	-	-
	<b>部門計</b>	<b>21.8</b>	<b>27.2</b>	<b>+5.4</b>	<b>+24.7%</b>	<b>21.8</b>	<b>27.2</b>	<b>+5.4</b>	<b>+24.7%</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>

(※1) 今年度より【医療機器】のうち、「その他」に分類されていた整形外科製品を「SD関連製品」に再分類しています。

# 製商品別売上高（2）

事業分類	単位：億円	全社				海外				日本			
		2021年度 2Q	2022年度 2Q	増減額	増減率	2021年度 2Q	2022年度 2Q	増減額	増減率	2021年度 2Q	2022年度 2Q	増減額	増減率
【ファーマ	生地管関連	47.1	57.4	+10.3	+21.8%	37.1	46.9	+9.8	+26.5%	10.0	10.5	+0.4	+4.7%
パッケージング]	アンブル硝子	23.8	33.5	+9.7	+40.9%	23.7	33.5	+9.7	+41.0%	0.0	0.0	0.0	+12.2%
	バイアル硝子	82.5	79.8	△2.7	△3.3%	74.6	71.1	△3.5	△4.7%	7.9	8.7	+0.7	+9.9%
	シリンジ硝子	30.4	28.7	△1.6	△5.6%	30.2	28.4	△1.7	△5.7%	0.2	0.2	0.0	+17.3%
	ゴム栓・栓体類	9.8	9.8	0.0	+0.0%	3.8	3.7	△0.1	△3.1%	6.0	6.1	+0.1	+2.0%
	プラスチック容器	10.9	9.2	△1.6	△15.4%	0.0	0.0	0.0	△99.0%	10.8	9.2	△1.6	△14.8%
	魔法瓶	1.8	1.8	0.0	+1.4%	-	-	-	-	1.8	1.8	0.0	+1.4%
	その他	10.0	10.0	0.0	+0.2%	8.1	8.5	+0.4	+5.0%	1.8	1.4	△0.3	△20.8%
	<b>部 門 計</b>	<b>216.7</b>	<b>230.7</b>	<b>+14.0</b>	<b>+6.5%</b>	<b>177.8</b>	<b>192.3</b>	<b>+14.5</b>	<b>+8.2%</b>	<b>38.9</b>	<b>38.3</b>	<b>△0.5</b>	<b>△1.4%</b>
【再生医療】	再生医療等製品	1.2	1.7	+0.5	+44.0%	-	-	-	-	1.2	1.7	+0.5	+44.0%
【その他】	生産機械販売・不動産賃貸	3.5	4.5	+0.9	+27.2%	0.3	0.2	△0.1	△34.3%	3.2	4.3	+1.1	+34.0%
	<b>連結合計</b>	<b>2,421.2</b>	<b>2,603.3</b>	<b>+182.1</b>	<b>+7.5%</b>	<b>1,055.8</b>	<b>1,214.7</b>	<b>+158.9</b>	<b>+15.1%</b>	<b>1,365.3</b>	<b>1,388.6</b>	<b>+23.2</b>	<b>+1.7%</b>

# 為替感応度

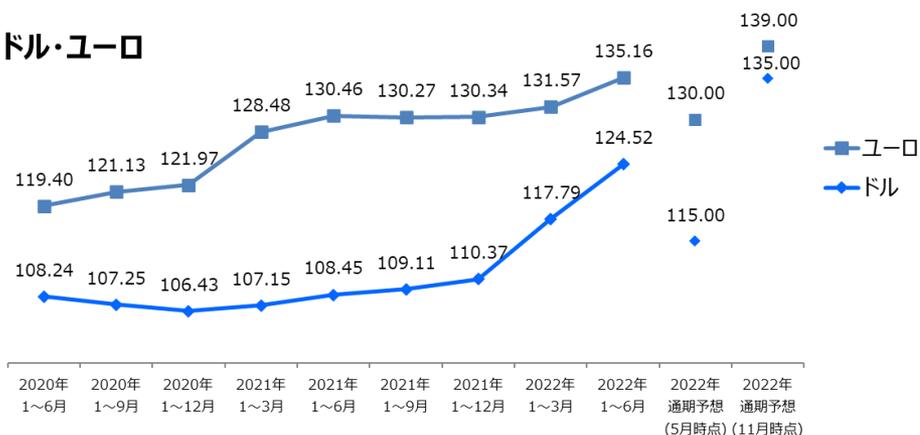
【1円変動による年間影響額】

(億円)

	ドル	ユーロ	元
売上高	8.9	4.4	18.3
営業利益	0.8	1.8	12.2

【期中平均レート】

ドル・ユーロ



元



# 設備投資額・減価償却費

	設備投資額				減価償却費			
	2021年度 2Q	2022年度 2Q	通期予想 5月時点 (進捗率)	通期予想 11月時点 (進捗率)	2021年度 2Q	2022年度 2Q	通期予想 5月時点 (進捗率)	通期予想 11月時点 (進捗率)
医療関連	134.6	245.9	311.7 78.9%	430.0 57.2%	95.4	104.1	192.0 54.2%	204.5 50.9%
医薬関連	118.1	109.3	182.5 59.9%	187.5 58.3%	63.4	63.6	141.0 45.1%	133.0 47.8%
ファーマパッケージング	36.3	62.8	123.0 51.1%	179.0 35.1%	24.0	24.5	52.5 46.7%	53.0 46.2%
その他	14.1	16.6	15.0 110.7%	121.0 13.7%	23.9	23.0	36.5 63.0%	62.0 37.1%
合計	303.1	434.7	632.2 68.8%	917.5 47.4%	206.9	215.3	422.0 51.0%	452.5 47.6%

(※) 今年度より、設備投資額の表示形式を検収ベースから計上ベースに変更しております。

## ● 設備投資額

医療はダイアライザの大館第7工場建築に関する設備費用を計上したことで、対前年で大きく増加。

また、大館第7工場建築に関する設備費用の来期計上予定分が、下期に前倒し見込みのため、通期予想も期初予想から大きく増加。

医薬はニプロファーマ近江工場新設に関する設備費用を計上するも、前年はニプロファーマ伊勢工場の新棟建築に関する設備費用を計上していたことから、対前年では微減。

ファーマパッケージングはアメリカのタンク拡張工事費用の計上に加え、フランスのガラス窯の修繕と新設費用の計上が前期から今期にずれ込んだことにより、対前年で増加。また、フランスのガラス窯の修繕と新設費用の計上が今期にずれ込んだことで、通期予想も期初予想から大きく増加。

その他には本社新社屋の設備投資費用の来期計上予定分が、下期にずれ込む見込みのため、期初予想から大きく増加。

## ● 減価償却費

各セグメント共に大きな工期遅延等も無く設備の稼働を開始できており、減価償却費はほぼ予算並みかつ前年比同程度で推移。



# 2022年度 通期予想の変更（全体）

	2021年度 実績	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (11月時点)	通期予想 増減額 (増減率)
売上高	4,947.8	5,400.0	<b>5,518.0</b>	118.0 +2.2%
売上原価	3,455.1	3,707.0	<b>3,842.0</b>	135.0 +3.6%
売上総利益	1,492.6 30.2%	1,693.0 31.4%	<b>1,676.0</b> 30.4%	△ 17.0 △1.0%
販売管理費	1,253.8 25.3%	1,418.0 26.3%	<b>1,499.0</b> 27.2%	81.0 +5.7%
営業利益	238.8 4.8%	275.0 5.1%	<b>177.0</b> 3.2%	△ 98.0 △35.6%
経常利益	275.8 5.6%	266.0 4.9%	<b>266.0</b> 4.8%	0.0 +0.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	134.5 2.7%	156.0 2.9%	<b>156.0</b> 2.8%	0.0 +0.0%

- 売上高 円安の急激な加速に伴い、売上高が拡大する見込みであり、期初予想に対し上方修正。
- 売上総利益 材料費、エネルギー費の価格転嫁が期初計画より遅延しており、売上総利益率は下方修正。
- 営業利益 期初の予想より運送費の高騰が継続する見込みであり、営業利益は大きく下方修正。
- 経常利益 期初の予想より為替差益が大きく拡大する見込みであり、経常利益は期初予想を据置。
- 当期純利益 特別損益は期初予想から大きな変動無く、当期純利益は期初予想を据置。

# 2022年度 通期予想の変更 (事業セグメント別)

## 医療関連事業

内訳	2021年度 実績	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (11月時点)	通期予想 増減額	通期予想 増減率
国内 医療機器	1,152.1	1,258.5	1,200.2	△58.3	-4.6%
医薬品	873.7	961.5	978.9	+17.4	1.8%
国際 B2B	216.5	229.9	227.6	△2.3	-1.0%
アメリカ	620.5	694.1	796.8	+102.7	14.8%
ヨーロッパ	379.1	359.8	402.5	+42.7	11.9%
アジア	246.0	289.4	314.5	+25.1	8.7%
中国	205.6	254.6	262.0	+7.4	2.9%
工場 直接販売	41.3	47.2	47.1	△0.1	-0.2%
売上高計	3,734.8	4,095.0	4,229.6	+134.6	3.3%
営業利益	392.4	407.0	406.3	△0.7	-0.2%
(同率)	10.5%	9.9%	9.6%	-	-

### ➤ 売上高

国内の医療機器は厚生労働省へのワクチン接種用シリンジの販売、HDFダイアライザの更なるシェアアップ、及び消耗品全般の値上げの実施、そして新製品の早期拡販を行うものの、上期から続く上海ロックダウンによる出荷調整の影響が大きく、下方修正

国内の医薬品は、既存品のシェア拡大に努めると共に、ネキシウムAGに最注力して販売拡大することを見込んでおり、上方修正

国際については、円安拡大の影響から売上高が拡大する見込み。また、米州において需要拡大と大型のワクチン用シリンジの販売が好調であることに加え、インドにおける販売が好調に推移していることから、上方修正

### ➤ 営業利益

主に国際事業において、材料費やエネルギー費、運送費高騰の価格転嫁が進まないため、下方修正。

## 医薬関連事業

内訳	2021年度 実績	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (11月時点)	通期予想 増減額	通期予想 増減率
GE品	399.1	400.6	409.2	+8.6	2.1%
先発・長期収載品	257.0	289.8	253.0	△36.8	-12.7%
OTC・原薬	40.0	46.7	43.2	△3.5	-7.5%
JMIファーマ	47.5	52.9	57.2	+4.3	8.1%
売上高計	743.8	790.0	762.6	△27.4	-3.5%
営業利益	98.2	99.0	26.0	△73.0	-73.7%
(同率)	13.2%	12.5%	3.4%	-	-

### ➤ 売上高

海外販売は堅調に推移するも、日本は顧客の在庫調整や販売終了品目の受注減、一部製品の出荷遅延により、下方修正

### ➤ 営業利益

売上高の減少に加え、原材料費・エネルギー費の大幅な高騰による原価高が想定されることにより、下方修正

## ファーマパッケージング事業

内訳	2021年度 実績	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (11月時点)	通期予想 増減額	通期予想 増減率
日本	115.1	111.0	115.9	+4.9	4.4%
ヨーロッパ	170.4	195.5	215.1	+19.6	10.0%
アメリカ	94.6	105.0	128.7	+23.7	22.6%
中国	71.0	87.0	44.3	△42.7	-49.1%
インド	12.3	13.5	18.0	+4.5	33.3%
売上高計	463.6	512.0	521.9	+9.9	1.9%
営業利益	28.8	33.0	28.0	△5.0	-15.2%
(同率)	6.2%	6.4%	5.4%	-	-

### ➤ 売上高

中国における減収の影響はあるものの、米国・欧州・インドにおける販売増加が継続する見込みのため、上方修正

### ➤ 営業利益

原材料費やエネルギー費高騰による影響に対し、価格転嫁を進めているものの、転嫁に伴う相殺は部分的に留まるため、下方修正

# 中期経営計画における主要KPI - ①

## 2024年度に向けたガイドライン

成長性	売上高成長率	年平均7.0%以上
収益性	営業利益率	9.0%以上

財務健全性 EBITDA純有利子負債倍率 4倍台



### ➤ 売上高成長率

コロナ影響による成長鈍化の影響が大きく、2021年度までの売上高年平均成長率は5.8%とガイドラインを下回る進捗で推移。2022年度上期では対前年同期で7.5%の成長。  
通期では世界的な円安の影響で海外売上高が増加傾向であることも加味し、売上高予想を上方修正。それに伴い売上高成長率はガイドラインを上回る11.5%を見込む。

### ➤ 営業利益率

2020年度まで営業利益率は少しずつ改善したものの、それ以降は下降に転じている。  
2022年度上期は運送費や原材料費の高騰により2.4%まで急落。下期についても運送費や原材料費の高騰が続くと予想されることから、営業利益率の通期予想は3.2%と対前年で悪化に下方修正。



### ➤ 純有利子負債

2021年度まで設備投資の増加により純有利子負債は増加傾向。2022年度上期も大館工場新棟やニプロファーマ近江工場新築に係る設備投資が膨らみ有利子負債は増加で推移したが、下期は利益増に加え新規借入の抑制に努めることで、通期予想は下方修正するものの今期末には対前年同期程度の水準まで圧縮を目指す。

### ➤ Net Debt/EBITDA倍率

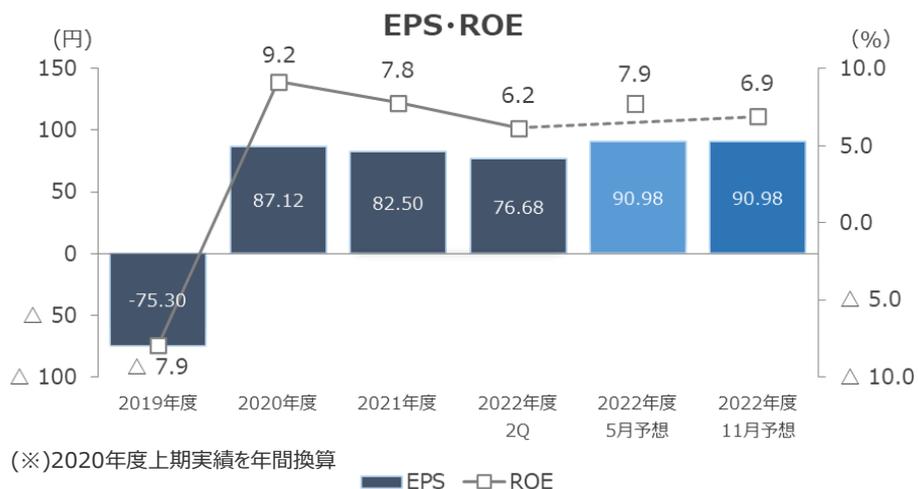
2021年度は、営業減益に加え純有利子負債が増加した影響でEBITDA倍率6.7倍まで増加。  
2022年度上期は、運送費や原材料費の高騰により営業利益が更に減少したため、EBITDA倍率は8.6倍まで悪化。  
下期は有利子負債の圧縮に努めるものの、通期予想は7.2倍と対前年で悪化に下方修正。



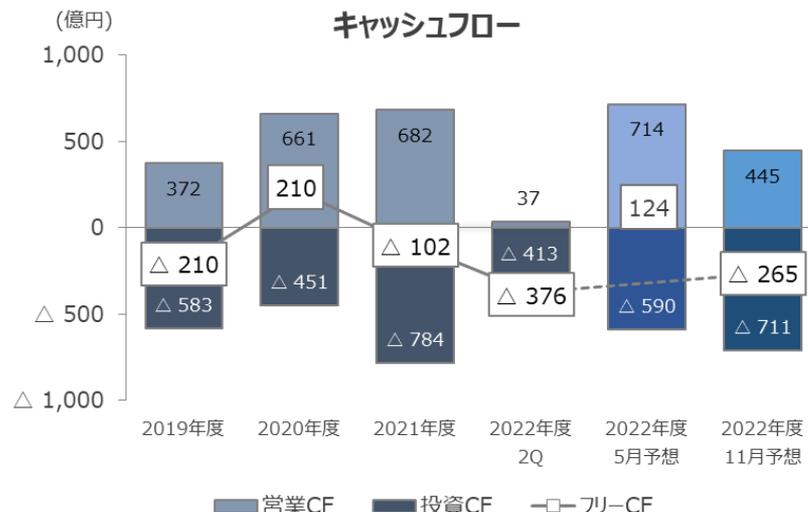
# 中期経営計画における主要KPI - ②

## 2024年度に向けたガイドライン

資産効率 ROE 14.0%



投資効率 フリーキャッシュフロー 黒字化



### ➤ ROE

2022年度上期は各種経費高騰による営業減益を為替差益の拡大でカバーし切れず、当期純利益は対前年で微減益。

これにより、EPSは年間換算76.68円と通期予想を下回る水準で推移。また急激な円安進行に伴う為替換算調整により自己資本が増加したことから、ROEについても年間換算6.2%と対前年で若干の未達となった。

通期では、EPSは期初予想から据え置くものの、ROEについては対前年で悪化に下方修正。

### ➤ フリーCF

2021年度は営業CFが高い水準で推移したものの、新規投資支出が大きく増加しフリーCFは102億円のマイナス。2022年度上期は、棚卸資産の増加や係争案件に関する賠償金支払いに加え、税前利益における為替差益の割合が増加したことも影響し、営業CFが37億円と低い水準で推移。それに伴い、フリーCFも大きくマイナスとなった。

下期では、債権流動化の促進と棚卸資産の圧縮で営業CFを大きく改善する見込みであるが、投資CFのマイナスをカバーし切れず通期でのフリーCF予想はマイナス着地かつ対前年で悪化に下方修正。

本資料における予測数値等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。

実際の業績等は今後の様々な要因により、本資料の記載事項と大きく異なる可能性があります。

